

## 勿凝学問 140

悪いね、僕は 1/2 租税方式論者に転向するよ

2008年3月7日

慶應義塾大学 商学部

教授 権丈善一

[勿凝学問 139](#) のつづきである。

報道ステーションで、一橋大学の高山憲之先生と司会の古館氏が・・・

古館氏

税方式の良い部分、そして保険方式の良い部分をちゃんと残してやらないと、これは、年金だけじゃなくて、高齢化社会を見据えたときに、医療介護、この大問題がひかえているわけですから、そうことは簡単にいかないぞというお考えなんですよね。

高山教授

おっしゃるとおりです。

それを観ていた僕が、「ほっほうー、なかなか良いこと言うじゃないか、このお二人はあ」とつぶやいていると、それを観ていたヨメが、「2分の1租税方式って言えばいいのに」と・・・。

目が点(。.) 一本とられた!?

はい、今後、僕は、1/2 租税方式論者と自称していくことにしますので、みなさん、よろしく。

これを機に、「新春論壇 [社会保障関係者、2008年の選択——国論三つ巴となる財源調達論](#)」『週刊社会保障』(No.2463, January 2008 Volume62) で文字数の調整のために削除されていた文章を復活し、紹介させていただきます。

社会保障の財源、とくに医療と年金の財源としては、出来る限り社会保険料に頼っておくほうが今日よりも多くの財源を確保することができるし、しかも長期的にも財源は安定し、よって給付も安定することになろうということは常々論じてきた。そして医療や年金制度に対する税の投入は、社会保険料の高まりを抑制し、保険料免除制度の充実だけでは達成が難しい皆保険・皆年金政策を支援する目的を明確にもって行う——すなわち保険料

の水準を引き下げる目的をもった支援策として行う——ことになる。さらに・・・「[新春論壇](#)」55頁以降の「もし、消費税率を引き上げることができるのであれば・・・」につづく（原文は、「さらにもし」でした）。

ところで、「税方式の良い部分、そして保険方式の良い」を勘案した1/2租税方式論者としては、現行の基礎年金1/3国庫負担額を、なんとかして引き上げてもらわなくてはならなくなる。来年度なされる若干の引き上げ分を除けば、2兆3000億円必要となり、これは消費税率1%弱に相当する。租税方式論者とは是非とも共闘したいものである。彼らが目指す2/2租税方式の実現には、通過点として必ず1/2を通るんだから、反目し合うような話じゃあないと思うんだけどね。だからよろしく、仲間に入れてくれないかな(´。´)ボソ... あっでも、時々ひよって、1/2保険方式論者になっているかもしれないです・・・やっぱり、仲間に入れてくれないか。。。

ちなみに、2004年年金改革の際に、2009年度までに基礎年金国庫負担割合を1/2に引き上げることが決まっている。